

⇔ '94年度の活動 ⇔

1994年度採集観察会

日時 2月19日(日) 10:00 ~ (雨天決行)  
場所 埼玉県飯能市「高山不動」(途中まで)  
集合 西武池袋線「西吾野」駅前(駅に地図あり)  
弁当は予め用意して下さい。駅及びその周辺に弁当屋がありません。  
世話人は平松毅久 ☎0492-33-8792

「1995年度」の活動

\*合宿(総会議案)

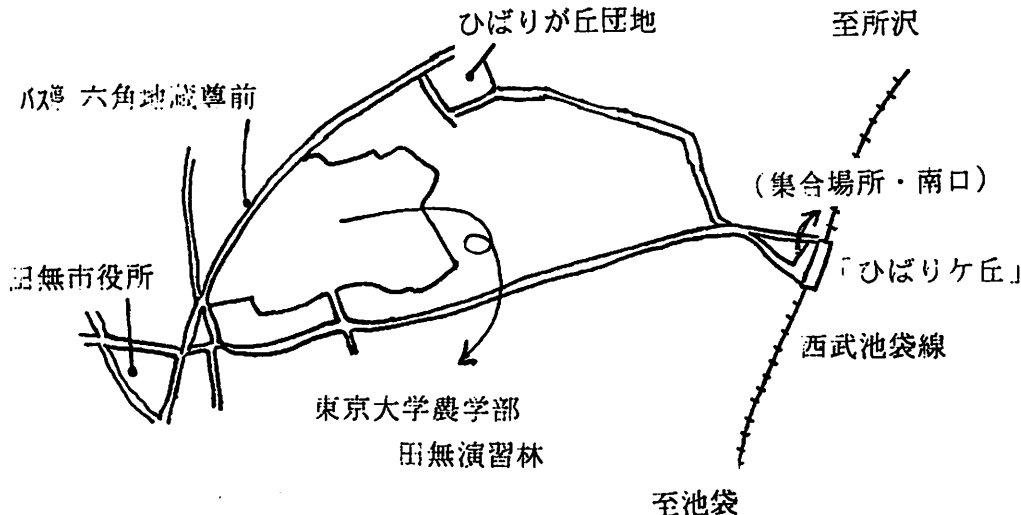
日時: 8月5~7日 場所: 高知県 世話人: 平松毅久  
詳細は4月総会後の「通信」にて

\*採集観察会(総会議案)

日時: 5月14日(日)、7月10日(日)、10月15日(日)、1996年2月18日(日)  
場所: 東京大学農学部 田無演習林  
世話人・宮下 直 ☎0471-74-1612、笹岡文雄 ☎03-3918-1945

\*第1回採集観察会 5月14日(日)(雨天決行!)

集合: 西武池袋線「ひばりが丘」南口 10:00  
(「団地經由武蔵境ゆき」バスにて7~8分、「六角地蔵尊前」下車)  
世話人は上記の通り、宮下 直、笹岡文雄  
◎駅前にて昼食は購入できます。



総会・例会案内

日時 4月23日(日) 10:00~

講演と総会および懇親会 例会費 ¥500

→世話人：事務局平松毅久 ☎0492-33-8792

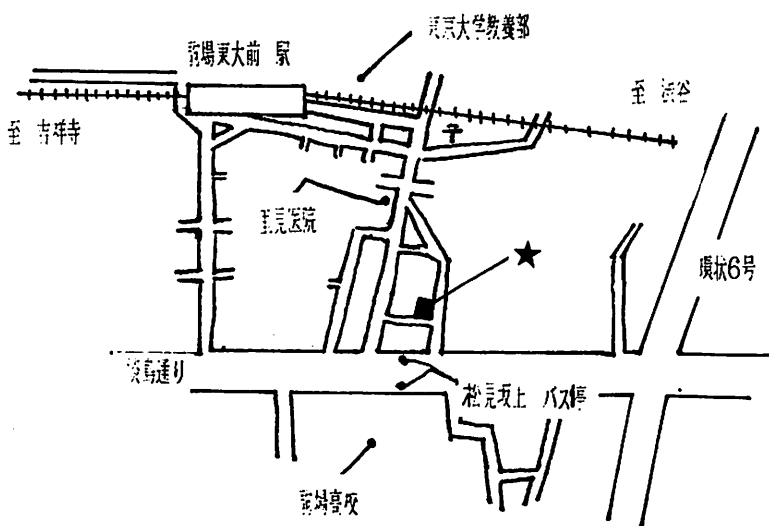
\*同封のハガキにて出欠のご連絡を事務局平松毅久まで。近況は通信に掲載します。

場所：目黒区立駒場住区センター

〒153 東京都目黒区駒場2-22-4 ☎03-3469-2613

交通案内 東武井の頭線「駒場東大前」 下車徒歩約8分

東急バス(渋谷駅 ~ 若林) 松見坂上  
(渋谷駅 ~ 田舎区通) 下車徒歩約3分



ハガキの書き方

50 350 川越市上戸9153  
平松毅久行  
瀬尾莊三

表

裏

・住所・氏名  
・合同例会に  
(出欠)します。  
・講演(有・無)  
演題 \_\_\_\_\_  
・近況 \_\_\_\_\_

「クモのはなし3題」

伴 満

☆一昨年のこと '93.10.10長野県蓼科で、腹部に模様のあるギボンシメグモを採集しました。まだ幼体ですが黒地に4本の山形白色横縞模様があります。

☆昨年 '94.4.24八丈島で採集したチュウガタコガネグモがフィルムケースに入れたメコの裏面に5mm位の球形の卵囊を付けました。24日目に孵化し個体数は54でした。

☆昨年 '94.7.23の丹沢の合宿でヒメグモの新顔♀を見つけました。一見ホシミドリヒメグモ風ですが、大きさは半分位でピンク色をしており、腹部後部両側に小さな黒点と背部に八の字風の白色模様が4個あります。吉田哉先生に同定して頂いた処、♂を見ないと確実な事は言えないが Chryso sp. の1種で日本未記載種では無いかとの事です。

初夏のきらめく陽光に照らし出された新緑の5月は、常緑樹にとっては落葉の季節でもある。吹き上げるように展開する若葉の下では役目を終えた古い葉が少しずつ脱落していく。遠く太平洋を望む林道の眼下に広がる山々はここ1ヶ月ですっかり若葉に覆い尽くされてしまった。ゴルフ場開発や砂利採取で悪名高い千葉県の中にあっても、清澄山周辺だけは大学の演習林に含まれているせいもあり、最も自然が豊かに残されている。ここに私はもうかれこれ20数年間、毎月一度ずつ通いつめている。都会では一年もたないうちに街のありさまが変化してしまう。郊外にわずかに残された緑地も数年間という間合いで建物や人工的な公園へと変貌を遂げてしまう。特に、ここ数年間の自然保護ブームは都市近郊に残された「そのまま」の自然を壊滅的にした。一見、逆説的であるが自然保護ブームに乗った市区町村のお役人は郊外に残された「そのまま」の自然に手を加えて雑木や雑草をとり払い、そこに西洋種の草花を植え砂利で舗装して柵をあつらえベンチをおいた。かくして自然公園がそこかしこに誕生して「そのまま」の自然は急激に消滅していった。このような状況の中にあって、清澄山の自然は私が初めて訪れた時とほとんど変わらない姿を今に残している。

毎月訪れるここ清澄山で私は主に造網性のクモ類の餌捕獲行動や網作りの行動を調べている。季節により場所により現れるクモの種類は異なり、網の形や餌を捕る行動にもさまざまな違いが見られる。これらの観察の合間に、20年間「馬鹿のひとつ覚え」のように続けてきた調査がある。それはジョロウグモの個体数の計数である。都市部に残された自然はあまりに変化が激しくまた「害虫」退治に消毒の散布なども行われ、継続的な調査など不可能である。ところが、清澄山ではそれらの心配がほとんどない。調査を始めた頃と変わったのは林道の数が増えたことと木々が成長したことくらいである。房総半島の分水嶺は郷台林道という砂利道が通う尾根にある。この林道沿いには調査用の杭が100mごとに打たれており、この杭の間にジョロウグモがどれだけいるかを毎年9月の中旬に数えている。ちょうど今年で21年目になるので、5月現在で手元には20年間のデータが集まったことになる。自然が豊かに残された場所だから毎年変わらずにたくさんのジョロウグモが見られるに違いないと思われるかも知れないが、実際に調べた結果はそのようにならない。100m当たりの個体数密度は多い年では41.9個体にもなるが、少ない年ではわずか1.3個体にまで減ってしまうのである。実に30倍以上の振幅を示すのである。また、特定の周期をもって変動しているわけでもないことも判った。この約20年間にピークは4回ほどみられ、ボトムは3回ほど現れた。これとて、あくまで大雑把に見てのことである。このような個体数の変動が何故起こるのかは現在のところは全く不明である。しかし、清澄山での20年間のジョロウグモの動態は「自然が豊かならたくさんのクモが現れ、そうでない場所

にはあまりクモは出現しない」というような単純な図式が成り立たないことを示唆している。同一の環境でも年によってかくも異なるのである。自然は我々が思う以上に複雑で多様性に富んだものなのであろう。

房総丘陵の山合を貫く久留里線の終点は上総亀山駅である。ここから、郷台へは徒歩で約2時間ほどである。サンプリング調査・定点観察など形式的なことは止めて、ただなんとなく歩きながらの「サンボリング」を続けてずいぶんと時間ばかりが経ってしまった。けれども、自然は見ようとする人にはそれなりにその姿を見せてくれるようだ。これからも、自然と語りながら清澄の山々を歩き続けて、自然の中でおこなされるさまざまな生き物たちの断片的ではあるかも知れないが、その「生きざま」の記載を続けようと思っている。

\* 談話会多足懇合同例会報告 1994.12.11(日) 目黒区立駒場住区センター

当日は午前中しばらく変電所火災の影響で、JR各線がしばらく動かず、不安な幕開けでした。予定より30分遅れて、スタートしたものの最終的には36名の参加の盛況となりました。

司会進行 桑原幸夫 (スライド: 西野洋一)

- (1) 開会挨拶 萱嶋 泉 10:30 (2) 自己紹介 10:35 (3) 午前の講演  
① 新島溪子「八ヶ岳のキシヤステ」――8年周期で大発生する本種の生態を演者編集によるビデオで紹介。また日本における4種のキシヤステ類の分布と発生年を解説。  
(4) 午後の講演  
② 浅間 茂「千葉県内のワラ巻き内のクモ」――ワラ巻き内のクモ相と環境の関係について。経年によるそのクモ相の変化と、ワラ巻きをした樹木を取り巻く環境とクモ相  
③ 谷川明男「クモの話題3つ」――1. 神奈川県産のクモ類について→池田、熊田、演者の手元にある文献標本から473種とす。2. *ワラマキクモ*の分布について→神奈川県西部から6例、東部も確実とする。3. 日本にも *Aculeperira* 属のクモがいる→世界20種、主として欧州北米の高山性の種。北海道より報告される。  
④ 篠原圭三郎「シモツケババヤステの模式産地の推定」――従来「Japan」とのみ記録されていた本種の模式産地を他の記録より、日光と推定した。  
⑤ 新海栄一「クモ類の系統と進化について (1)～形態・生態両面より見た進化の歪みを検証する」――アプローチの違いによるその“振れ”を検証する。  
(5) 閉会挨拶 篠原圭三郎 15:50 (6) 懇親会

参加者: 秋山亜由子、浅間 茂、生山 健、泉 宏子、梅林 力、小野展嗣、笠原喜久男、加藤輝代子、加藤倫之、加藤むつみ、萱嶋 泉、木村正吾、木村知之、工藤泰恵、久保田克哉、棚沢 新、桑原幸夫、後藤好正、笹岡文雄、佐々木祐子、篠原圭三郎、新海栄一、鈴木茂生、高野光男、高橋 登、谷川明男、新島溪子、西尾三枝子、西野洋一、萩本房枝、原山紀夫、伴 満、平松毅久、古浜 隆、安田明雄、山川 守 (36名)50音順

★嶋田順一（埼玉県飯能市）あいかわらずやきとりを焼いております。談話会の採集会が飯能ですので、ゆりに哲さん寄ってくれるので、クモの世界にじかに接することができ喜んでおります。会員方々の健康をお祈りします。

★小沢賢樹（東京都世田谷区）元気であります。それなのにクモをあまり追いかけて「通信」を受けるたび刺激されます。

★初芝伸吾（東京都中野区）大学時代からクモに興味がありましたが、談話会に入る機会もなく卒業し、就職してから入ることになりました。何分素人ですので、これからご指導よろしく願いたします。

★新海明（東京都立川市）12/10-11は須走観察会の為欠席します。二次会に間に合うようなら会場へ行きます。池田さんの時から気付いていたのですが、駒場東大前駅は「東急」ではなく「京王」井の頭線ですので次から訂正して下さい。色々お世話かけますが宜しく。

★中島祥吉（東京都町田市）今免疫とか人の心などに興味が向いています。クモに興味集中したらご一緒させて頂きます。それまではお休みを下さい。

★久保田克哉（神奈川県大和市）来年から静岡で暮らすことになりました。例会などの時に遅くまでお酒が飲めなくなるのが残念。

★池田泉（神奈川県大井町）9月に新学期が始まってから、試験が多くて大変です。でも学生だからと思って、せせせと取り組む毎日です。秋になったので、暑いと感じる日もだんだん少なくなってきました。風邪をひかないよう気をつけたいものです。

★千国安之輔（長野県豊科町）高齢で、身心のあちこちに老化がめだってきました。そんなわけで、ご無沙汰いたします。

★須賀瑛文（岐阜県可児市）いつも通信楽しく拝読いたしております。今、中部蜘蛛懇談会会報「蜘蛛」のNo. 27 の編集をはじめたところです。なお、中部蜘蛛懇でも通信的な「まどい」を発行しています。この通信のようにはいきませんが、それでもNo. 6まで出すことができました。「まどい」は名古屋市熱田区五本松町2-21小笠原幸恵方「まどい」編集部で扱っています。

★田中穂積（大阪府富田林市）毎回欠席で残念です。やはり東京までというのが少し遠くて…。申し分け有りません。

★東條清（和歌山県海南市）数年前からイトグモの生態観察を続けています。それで関東方面の標本を是非希望しておりますのでどなたかよろしく願いたします。

★大熊千代子（福岡市）談話会通信No. 82 楽しく読ませていただきました。新聞やマンガの切抜きも知らないものがあり、参考になりました。福岡は猛暑は終り、涼しくなりましたが時間給水が続いており（夜10時～翌朝10時）もう馴れたとは言え、疲れもたまりつつあり、クモの仕事も遅れがちです（今は宮崎のクモを調べています）。身辺も来春の定年をひかえてごたついております。来年4月以降心機一転頑張ることにします。

★木庭奏（熊本県山鹿市）毎回の通信楽しく読ませていただいております。本年も遠方の為会への参加を欠席させていただきます。熊本でも北部の当地は5月から9月までの総降

雨量35.7mm。土はからから乾きです。円網を張るクモがめっきり減ってしまいました。アシナガグモ、チュウガタシロカネが多く見られる6～8月までnetが極端に少なく、昆虫発生が少なく餌不足からか体長が短いものばかりが、僅かに見られました。昨年は長雨、今年は早魃。Cyclosa 属もギンメッキの幼生が2週間程住みついたけど、何処かへ移動してしまい、あとはCyclosa 属は全く見られず、お手上げの状況です。来年のクモはどんなのが出現してくれるのでしょうか。

★鶴崎展巨（鳥取市）金沢での大会後、佐々木健志氏と共同で沖縄産キジロオヒキグモの染色体を調べました。いずれ報告をお目にかけます。

★古川渉（東京都武蔵野市）「Kishidaia」毎号楽しく読んでおります。

★朝倉幹晴（東京都文京区）いつもおもしろい通信ありがとうございます。

★入江輝雄（熊本市）合同例会の盛会心からお祈り申し上げます。「ユウレイグモ」の研究、ぼつぼつ続けています。「オダカユウレイグモ」の情報、お待ちしております。

★赤羽尚美（神奈川県厚木市）「ムツトゲイセキグモを観察」—神奈川県では30年ぶりの確認で1994年8月20日厚木市七沢の桑の葉にムツトゲイセキグモの♀の成体が2つの卵のうち（以後1週間後に3個となる）を守っていたのを見つけ、9月8日池田博明氏に同定していただき、9月9日18時45分～20時30分投げ縄行動の観察をしたが、その行動を見ることができず残念でした。その後9月11日には成体が見当たらず（9月10日確認）（原因不明）その後現れることなく今卵のうち3個を見守り来4月の出のうに期待をしております。なお報道は4新聞とNHKラジオでした。（追伸）自然保護センターノクモの記録は31科187種です。

★吉田哉（山形市）今年度はほとんど採集にも行かず、新しいことなどにうとくなっていますが、手元にある標本は多数あり研究しようとしている事は色々あります。これからまた研究したいと思っています。

★小野展嗣（東京都新宿区）上野にある博物館の本館の新2号館の建設工事が始まりました。展示更新の委員をさせられていますので、むこう5年間は週2日間は会議などでつぶされそうです。

★長島充（千葉県佐倉市）今年、フィールド内で新たに観察したクモ、アオオニグモ、キヨヒメグモ、ムラクモヒシガタグモ、イシサワオニグモ、ハラダカツクネグモの5種類です。自宅周辺のライフリストは約180種あまりになりました。秋から冬にかけてクモ屋から鳥屋に変わります。希望ですが今後、通信などでベテランの方々に初心者向けの入門コーナーを書いていただけませんか？どうぞよろしくお願いします。

★秋山亜由子（東京都杉並区）ものすごく楽しみにしていた採集観察会に結局ひとつも参加することができず意気消沈しております。次回は何とか都合がつくよう切に願うこの頃であります。

★後藤好正（神奈川県横浜市）あいかわらずなにもしてません。「横浜市港北区域の鶴見川生物相調査報告書」を発行しましたが、クモを取り上げています。送料を負担していた

できれば差し上げますので、ご連絡下さい。

★佐藤幸子（神奈川県横浜市）この頃（10月下旬）庭の草取りして目立つクモは、アサヒエビグモ、フクログモの誰かです。そのかわり部屋の中には若い大きなアシダカグモがいて、猫をニランでいます。

★織茂尚子（神奈川県横浜市）結婚して佐藤から織茂になりました。よろしく願い致します。

★山川守（神奈川県横浜市）丹沢山塊の真正蜘蛛類の調査を行って25年になりますが、これまでマメイタイセキグモは8回記録があるもののムツゲイセキグモは一度も発見できませんでした。ところが今年は9月4日に「青野原」♀、9月11日に「上古沢」で♀を採集できました。また、神奈川県立自然保護センター所長の赤羽さんも「七沢」で発見しているので、今年は丹沢で3頭ものムツゲイセキグモを記録した事になります。

★谷川明男（神奈川県横浜市）コガネグモ科のクモ類を研究中です。ご不要の標本がありましたらご恵与いただければ幸いです。

★池田博明（神奈川県足柄上郡）出席のつもりでしたが、11月中に予定されていた教科書編集会議が12月4日と11日にズレこんでしまいました。平成10年度の改訂作業のヤマ場なので、出ないわけにいかず、残念ながら欠席せざるをえません。

★濱田龍一（広島市福山市）なぜか今年はシロブチサラグモの生息密度が極めて低く、前年、前々年の約1/20といったところで、水田、畑作の準備もあったので調査を見送りました。水田でのアシナガグモの調査も、水田の除草、夏播きキャベツの世話に追われて今年も見送りました。初めて野菜作りに挑戦して、日の入り後の散水、日の出前の除草に追われ、“クモ屋”なのか“キャベツ屋”なのか判らない毎日を過ごしてきました。精進の甲斐あって秋播きキャベツは立派なのができているのですが蜘蛛はいません。あー…。来年は周年いろんな生育型の野菜を作って昆虫、蜘蛛の調査をやる予定です。

★稲垣成二（和歌山県西牟婁郡）今年は3人目（長女）が生まれ、あわただしい毎日で、ほとんど観察に出ることができませんでした。

★八木沼健夫（大阪市）今年は体調振わず、病気勝ちの年で研究は何も出来ておりません。8月25日から11月12日まで大阪市内の病院に入院しておりました。おもな治療も終わったので、あとは家庭で療養中です。危機を脱し一安心です。病床にあって来し方、行く末などあれこれ頭を駆け巡りました。こんなにゆっくり時間をとれたのは初めてです。病床にKISHIDAIA や談話会通信や別刷りなどが届き、寝ながら拝読するのが何よりのなぐさめでした。それにつけても近頃は将来に期待をかけている人（複数）から何らの反応や音沙汰の無いことは淋しいです。もう教えることは何もなく、むしろこちらが学ぶ立場ですが、それだけに音信が待たれます。研究は当分の間閉店休業です。会のご盛會と、皆様のご発展を祈ります。

★木村正吾（神奈川県横浜市）先日、転職をしまして、現在、観音崎自然博物館で働いております。どうぞよろしくおねがいます。

★加藤むつみ（千葉市）日曜IPM5：45±3分位のNHK教育テレビの「おかあさんと一緒（？）」の中でSpiderという歌のコーナーをやっています。いつもではないけれど時々感動的なのをやりますよ！（笹岡さん御存じでなかったら教えてあげてくださいね）「へえ〜クモってこんな風に見られることもあるんだ」と…。

★棚沢新（東京都文京区）大学に入学してはやくも1年がすぎようとしています。語学系の大学だけあってさすがにきびしく、おまけになにを思ったか、ラグビーに入学してしまえらいことになっています。しかし、今までずっと文系のクラブに入っていたのですが、ラグビーというハードなスポーツについていけるので不思議です。ちなみに今年、我がラグビー部は1部に上がることができました。

★梅林力（東京都杉並区）学期末、個人面談や成績処理頭に忙しい毎日を送っていますが、何とかつごうをつけて出席します。今、ヨーロッパのコモリの赤ちゃん育てに苦勞しています。

★中平清（高知県吾川郡）来年度の合宿学習会の会場は、高知になるらしく（？）、大変うれしいです。その学習会を契機として高知県産のクモを調査研究される方が出はしまいかと、大いに楽しみにしています。高知県は生物地理的にも面白い処ではないだろうかと思しますので。どうかよろしくお願いします。

★荻本房枝（神奈川県横浜市）元気です。毎日、散歩をしながら、つつい葉の裏をみると暖冬のせいあまりクモがいません。クモにとって暖冬がいいのか、悪いのか来年がたのしみですね。

ほかに萱島泉先生、新海栄一、鈴木成生、伴満、和仁道大、藤井靖浩、小川敦央、生山健、浅間茂、泉宏子、梅田泰圭の各氏よりお便りをいただきました。

→（近況の追加）編集の都合上、ハガキの集計を例会前日で締め切りましたが、その後届いたものを急遽追加しました。

★近藤昭夫（横浜市）今回の例会も結局欠席してしまいました。皆様のご活躍に接する機会を自ら放棄したわけで、残念であると同時に申し訳なく思っております。当日は朝寝坊をしてしまい家の片づけを少々、午後研究室に出てジョロウグモの世話、8時すぎ帰宅しその後は各種書類をワープロで作成し、2時に就寝。こんな日曜日が2ヶ月余り続いております。日本蜘蛛学会の仕事からようやく解放されましたが、それを待っていたかのように学内では学生部次長の仕事が入り、夏には軽井沢山荘の視察。この秋は千葉県のほかの地区の学生部の会議、食堂改築の資料作りに追われています。そろそろ来年の蜘蛛学会大会の準備に入らねばならぬ時期になりました。……とりとめない近況ですが。

★平松毅久（埼玉県川越市）カラカラグモ科のクモを集めようと思います。もしお手持ちのカラカラグモ、ヤマジグモ、ナルコグモ等ございましたらお見せください。



◎本邦蜘蛛伝紹介その1 (記事紹介)

「キリスト教保育」 1993.9 p.38-40 "クモはお行儀のよい動物" 萱嶋 泉

「キリスト教保育」 1993.10 p.38-40 "クモのパフォーマンス" 萱嶋 泉

(本文提供: 萱嶋 泉さん)

"クモはお行儀のよい動物"とはちよつとドキツとする表題です。前半の文章は今や知る人ぞ知るクモ研究者である著者の、小学校時代のエピソードから始まります。クモの網にかかった蝶を見るうちにクモを憎らしく思う気持ち。やがてそれを「悪者クモ助」という作文にして、担任の先生に提出することになります。その先生に薦められて、さらに深くクモそのものや網の観察を重ねていきます。そして観察や採集で集められた蝶やクモの名前を調べるために高橋良一、岸田久吉といった人々と知合うことにことで、決定的に考えが変っていきました。それが「人の為になるクモさん」という作文の題に結ばれていきます。後半はクモの網上での、捕食動作や食べかすの処理といった具体的な観察から始まっています。クモにはテーブルマナーがあると表現され、ここからこの文章の題名が出ています。最後にカバキコマチグモ、ササグモ、コモリグモの"子守"の数々が紹介されてその愛情の深さを知ることができます。

"クモのパフォーマンス"はクモの造網の話から始まります。オニグモがどのようにしてあの見事な円網を造るか"流し糸"の話を始め、まるで絵に書いたように丁寧な筆致で描写されています。そして東北で雪むかえで知られるバルーニングのこと、飛行機でその飛行グモを採集実験した話と、筆者の豊富な体験によるクモの生態が並んでいます。まさにクモのパフォーマンス!

(文)

# クモの パフォーマンス

萱嶋 泉

(日本蜘蛛学会会誌 第19号 7頁)



クモは各種の演技をして、私共を楽しませてくれます。その一つに綱づくりがあります。網をはるクモにとって網は大切な餌場ですから、クモは金力を尽くして独特の形の網を出のいそうな所にはります。例えば、オニグモは円形網をはりますが、夕方になると行動を開始します。先ず隠れ家から出てきて、これぞと思う場所を探します。見つかると腹部を空に向けて風の吹いてくるのを待ちます。吹いてくると、「流し糸」をその風に飛せて流します。その糸の数は「百本」を超えると口わ

れます。もし風の弱い時には「しおり糸」を引いて、すくとと十七センチばかり落下します。その落下の速度を利用して糸を風に飛ばします。いったん風に飛せると、「流し糸」をどんとん出しますから、網の中を流れてゆきます。その中に、「流し糸」のどれかが枝に付着しますと、その糸に張りかえますので、この糸だけを残して他は切つて捨ててしまします。捨てられた糸はふわりふわりと網の中を漂います。大きい糸では何万匹ものオニグモが一斉に綱づくりをするので、捨てられる糸の量は莫大を

採集観察会中間報告 第3回 1994年10月15日(日) 晴

参加者(50音順、敬称略): 赤羽尚美、阿部代始子、天野和明、天野清子、荒金泰子、池田博明、泉 宏子、大塩一郎、笠原喜久雄、加藤むつみ、木村知之、工藤泰恵、笹岡文雄、Janis Smith、鈴木成生、千田隆史、長井芳夫、中島晴子、中野隆雄、初芝伸吾、伴 満、平松毅久、古浜 隆、牧原くみ子、和仁道大、新海 明(2次会)以上26名

- トタテグモ科 キノボリトタテ y  
 ジグモ科 ジグモ n  
 ハグモ科 ハグモ sp. m, y  
 ウズグモ科 マネキグモ y ウズグモ sp. y  
 エンマグモ科 ミヤグモ F, y  
 ユウレイグモ科 ユウレイグモ F  
 ヒメグモ科 ツリガネヒメ F, e オオヒメ F トビジロイソウロウ m, y  
 オナガ y フタオイソウロウ m, y ヤリグモ y ホシミドリヒメ y カニミジン f, m  
 ハンゲツオスナキ F, e ムナボシヒメ m コケヒメ y  
 サラグモ科 ヤミサラグモ sp. f クスミサラグモ y ユノハマサラグモ y  
 コサラグモ sp. F  
 センショウグモ科 センショウグモ y  
 コツブグモ科 ナンブコツブグモ y  
 コガネグモ科 ヌサオニ y イシサワオニ F アオオニ f ハラビロミドリオニ y  
 ヤミイロオニ sp. f チュウガタコガネ y ナガコガネ F コガタコガネ F  
 カラスゴミ F ゴミグモ y ヨツデゴミ y トリノフンダマシ F, e トゲグモ F  
 シロスジショウジョウ y コガネグモダマシ M ジョロウグモ F カラフトオニ y  
 カラカラグモ科 ヤマジグモ y カラカラグモ y  
 アシナガグモ科 オオシロカネグモ F, y ヤマジドヨウグモ F, y タニマノドヨウ  
 グモ y メガネドヨウグモ y ヤサガタアシナガ y アシナガ y ウロコアシナガ y  
 ヒラタグモ科 ヒラタグモ F, y  
 タナグモ科 クサグモ F, e コクサグモ F  
 ハタケグモ科 ハタケグモ M  
 キシダグモ科 アオグロハシリグモ y スジアカハシリ y イオウイロハシリグモ y  
 コモリグモ科 フジイコモリグモ y コガタコモリグモ F, e  
 フクログモ科 トビイロフクログモ y フクログモ sp. M ネコグモ y  
 アシダカグモ科 コアシダカグモ y  
 エビグモ科 キハダエビグモ y  
 カニグモ科 コハナグモ y クマダハナグモ M ハナグモ y ワカバグモ y  
 トラフカニグモ F ヤミイロカニグモ y  
 ハエトリグモ科 マミジロハエトリ F, M, y ウデブトハエトリ y オオハエトリ F  
 ヨダンハエトリ m ヤサアリグモ y チャイロアサヒハエトリ y デーニッツハエトリ  
 F, M, y

計77種 略号 F(♀成体) M(♂成体) f(♀幼体) m(♂幼体) y(不明幼体)  
 y(性別不明幼体) e(卵) n(巣)

文責 平松毅久

会員移動

(入会)

- 赤羽 尚美：〒243-02 神奈川県厚木市及川1154  
 秋元 昇：〒225 神奈川県横浜市緑区あざみ野2-35-5 C-102  
 佐々木健志：〒903-01 沖縄県西原町千原1 琉球大学資料館  
 泉 宏子：〒265 千葉県千葉市若葉区中野町241  
 千田 隆史：〒197 東京都秋川市小川東1-11-1  
 大塩 一郎：〒194 東京都町田市南つくし野1-3-5  
 初芝 伸吾：〒165 東京都中野区沼袋1-14-15 磯田様方  
 梅田 泰圭：〒275 千葉県習志野市大久保3-9-3-203  
 工藤 泰恵：〒277 千葉県柏市根戸409-1  
 天野 和明：〒179 東京都練馬区光が丘7-3-3-702  
 天野 清子：〒179 同上  
 中野 隆雄：〒206 東京都稲城市押立486-4 やよい荘201  
 大川 秀治：〒229 神奈川県相模原市二本松1-2-8  
 西尾三枝子：〒333 川口市芝富士1-20-21  
 及川 昭代：〒257 秦野市桜町1-4-19  
 守 桂子：〒257 秦野市尾尻511-3  
 浜岡 史子：〒257 秦野市尾尻525-10  
 田中 勝子：〒179 東京都練馬区旭町3-18-21  
 (住所変更等)  
 小川 敦央：〒194 東京都町田市南成瀬5-16-22  
 川崎 慎二：〒087 北海道根室市敷島町2-53 敷島レジデンス  
 熊田 憲一：〒515-03 三重県多気郡明和町池村2113  
 ヤマギシズム生活明和実顕地  
 下謝名松栄：〒901-21 沖縄県浦添市勢俣客103  
 長井 芳夫：〒275 千葉県習志野市本大久保2-4-1-107 (表記訂正)  
 林 聡彦：〒180 東京都武蔵野市吉祥寺北町1-5-10-105  
 (株) ネイテック内  
 牧 孝匡：〒329-04 栃木県河内郡南河内町祇園3-1-2  
 自治医大アーバンコンフォート306号  
 宮島 仁：〒241 神奈川県横浜市旭区笹野台4-4-4  
 山本 一博：〒290-01 千葉県市原市喜多906 遠藤尚弘様方  
 吉田 真：〒525 滋賀県草津市野路町1916 立命館大学理工学部生物学教室  
 板倉 康弘：〒444 愛知県岡崎市伊賀町4-62-3  
 織茂 尚子：〒233 神奈川県横浜市港南区野庭町459 (結婚)

事務局。会計日より 会費の問い合わせには受付番号 (H000) を明記して下さい。

H は振り込み、D は現金で直接いただいた事を示します。

『会費受領』 1994年 4月中旬～1998年12月下旬

(敬称略)

1993年度

佐々木勝實H020, 吉田 嗣郎H044, 大野 正男H049, 八木沼健夫H053, 朝倉 幹晴H063  
浅枝 裕嗣H064, 磯部 達男H068, 西条 雄介H070, 松本 誠治H073

1994年度

下謝名松栄H001, 赤羽 尚美H002, 中平 清H003, 山川 守H004, 福島 彬人H005  
神田 登H006, 前川 隆敏H007, 福本 伸男H008, 鶴崎 展巨H009, 高津 佳史H010  
東 千都子H012, 秋元 昇H013, 秋山亜由子H014, 海老原憲昭H015, 小川 新哉H016  
小池 牧子H017, 新海 明H018, 谷川 明男H019, 佐々木勝實H020, 中島 祥吉H021,  
田副 幸子H022, 佐久間良三H023, 泉 宏子H024, 井野 文雄H026, 松田まゆみH028,  
吉倉 真H029, 永井 均H030, 林 俊夫H031, 吉田 哉H033, 安藤 昭久H034  
野島 宏一H035, 大塩 一郎H038, 畑守 有紀D001, 佐藤 和昭D002, 久保田克哉D003  
千田 隆史D005, 古浜 隆D006, 貞元 巳良D007, 加藤輝代子D008, 東條 清H039  
田中 一裕H040, 佐々木健志H041, 生山 健H042, 永田 勝利H043, 吉田 嗣郎H044  
鍋田 修身H045, 梅田 泰圭H046, 初芝 伸吾H047, 糸川 和子H048, 木村 知之D010  
平松 毅久D012, 天野 和明D016, 天野 清子D017, 中野 隆雄D018, 長島 充H050  
立川 晴二H051, 林 聡彦H052, 八木沼健夫H053, 後藤 好正H055, 大川 秀治H057  
木村 正吾H058, 清水 徹男H059, 北島 博H060, 西尾三枝子H061, 坂寄 廣H062  
朝倉 幹晴H063, 浅枝 裕嗣H064, 磯部 達男H068, 小峰 光弘D019, 田中 勝子H069,  
西条 雄介H070, 浅間 茂D024, 鈴木 勝浩H072, 松本 誠治H073

1995年度

下謝名松栄H001, 福本 伸男H008, 山本 一博H011, 海老原憲昭H015, 新開 孝H025  
古内 栄一H025, 日下部光代H036, 木庭 奏H037, 貞元 巳良D007, 宮下 和喜H009  
田中 一裕H040, 永田 勝利H043, 吉田 嗣郎H044, 鍋田 修身H045, 木村 知之D010  
笹岡 文雄D011, 平松 毅久D012, 中島 晴子D013, 長井 芳夫D014, 牧原くみ子D015  
長島 充H050, 阿佐見正起H054, 須賀 瑛文H056, 木村 正吾H058, 清水 徹男H059  
北島 博H060, 坂寄 廣H062, 磯部 達男H068, 西条 雄介H070, 後藤 好正D020  
安田 明雄D021, 佐々木祐子D022, 加藤むつみD023, 浅間 茂D024, 鈴木 勝浩H072  
松本 誠治H073, 野崎 文江H074

1996年度

下謝名松栄H001, 海老原憲昭H015, 新開 孝H025, 石野田辰夫H032, 木庭 奏H037,  
梅林 力D004, 田中 一裕H040, 阿佐見正起H054, 浅間 茂D024, 田中 穂積H071

1997年度

下謝名松栄H001

1998年度

下謝名松栄H001

1999年度

下謝名松栄H001

寄付

笠原喜久男(10000円)、工藤 泰恵(9185円)、中平 清(4500円)、深瀬 徳子(1000円)  
木庭 奏(400円)、石野田辰夫、中島 晴子、長井 芳夫、牧原くみ子(各200円)



東京蜘蛛談話会



「クモの魅力」を尋ねると異口同音に、「生涯が多種多様に渡る。一匹のクモは、幼虫から成虫まで、都市から山の上まで至るクモの世界は、思いのほか深遠。クモの美しさについて話す会員もいた。熟年の植物博士は「会の人間関係がたいへんスムーズなのが魅力」という。

「クモの研究はまだ十分確立されていないので、やりがいがある。新種の発見も十分可能。しかしきちんとした研究機関がなく、クモの博物館や研究所をつくるのが夢」と会事務局で世話役をしている平松毅久さんは話す。クモが好きというだけで(そうではなくても)入会できる。

クモを自腹く見つけ出す談話会メンバー

捕虫網をかついて都会も探索

全国200会員が観察会や採集会

採集を開始する。昔、クモのいる場所は自ら承知。木の幹を叩いたり草むらを探したりして採集に、通行人が、なにをされているのだろうと一瞥を向ける。都会のクモは微小なものが多く、ルーペで覗いて名前を同定する。そもそもは、クモ研究の権威だった故岸田久吉氏の蔵書を整理するために、二十七年前に門下生が集まったのがきっかけ。自然に観察会が始まり、愛好会になった。当初八人だった会員は、今では三百人。活動は首都圏中心だが、会員は全国に広がっている。主な活動は例年一回、採集会四回と夏合宿。今年の採集会は埼玉の飯能で行

メモ東京蜘蛛談話会事務局。〒300 越市上戸九一三。電話〇四二九一三三三。一八七九二、平松さん宅。



1992年(平成4年)11月21日

(3) 2版



時風 建築家・松本 健

梅林 力さん提供

朝日新聞



新宮 晋

もしピーター・ライスはいなかったら、帆船を運んだように優雅なシドニーのオペラハウスも、現代美術の拠点、パリのボン・ドール・センターも、今のようには存在しなかったに違いない。

多くの現代建築が、ピーターの協力を得て実現したのは事実

だ。彼は、今世紀最高の建築構造エンジニアと謳われている。

建築家のレンソ・ピアノといっしょに私のアトリエにやって来たとき、初めて彼に会った。

私たちは、シエノバのコンラース博のためのモニュメントの相談をした。

レンソに比べて、すべてひかえめに振るまっていたが、ポケットから小さな三角スケールを取り出しては模型を採寸し、即座に適切な措置をする彼に、私はすっかり感心してしまった。

糸

そのときまで私は、彼がどんなにすごい才能の持ち主か知らなかったのだ。

私たちは、この帆のイメージを持った作品のために大阪、シエノバ、ロンドンで会いながら、無数のアイデアをしほり出し、模型を作り、解決策を練り合っ

た。どんな奇抜な案でも、彼は実現のための手掛かりを名探偵のように見つけ出してくれた。

私たちはあるとき、二人ともクモの巣に興味を持っていて、そのことを驚いた。彼は、クモ

の糸が継ぎ目でけっして切れることがないのに注目して、オックスフォード大学の生物学の先生と共同で研究していた。私は、オニグモが円網を作って、翌朝たたむまでのドラマを、絵本に描いたりしていた。

彼は「お前もいっしょに研究しよう。きっとそこには構造上の秘密が隠れているのに違いない」とキキもものように生き生きとした目で話していた。そんな彼が、突然の病で亡くなったのも二年になる。

(造形作家)



提供：笹岡、梅林 力さん

'94.8.30 (朝)

(第3種郵便物認可)

毎日新聞

私見  
直言

五年前の六月十八日、東京大学構内で「キシノウエトタテグモ」という地中性のクモの調査が行われた。キシノウエトタテグモは一八八九(明治二十二年)、同大学構内で、当時の東大教授・岸上謙吉によって発見され、同氏の名前をとって「岸上立蜘蛛」と命名された。調査の日はそれからちょうど二〇〇年目に当たり、同じ場所ですぐクモを発見する目的で行われたのである。

当日は東京クモ学会のメンバー二十人が参加、三十個体以上の巣穴を確認し、クモが無事、生存していることを喜んだ。ところが、それからわずか四年、キシノウエトタテグモの生息地は跡形もなくな破産され、コンクリートで固められてしまった。関東大震災も東京大空襲も乗り越えてきたクモたちは、造成と建築によって一瞬に姿を消してしまっ

新海 栄一  
日本蜘蛛学会評議員  
都市環境というのは本来自然破壊の上成り立っている。そこに自然を求めること自体無理な話であるが、そのよつな都市環境の中に少しでも多くの自然を残すことを目的に、都市公園や緑地が整備されている。代々木公園、新宿御苑、明治神宮、自然教育園などが代表的なものであり、これら

# クモの世界から見た都市環境



の公園には多くの動物が生息している。そこで私の専門であるクモの生息数から、それぞれの公園の自然度をみると、代々木公園、新宿御苑では約四十種のクモしか見つからなかったのに対し、明治神宮、自然教育園には八十種以上が生息していたのである。

さらに豊かな自然環境が保たれている地域に多く出現する自然環境遊好種と呼ばれる山地型のクモの出現比率をみても、前二公園の二五％に対し、後二公園は三〇％に達しており、やはり二倍近い差が生じている。これは、おそらへ、植栽と造成、さらに通常の公園管理の違いによると思われる。前二公園は人々が遊べる公園として管理され、後二公園は自然を保護することを目的に管理されている。つまりひびひに都市公園(緑地)と管っても、造成方法、管理方法によっては、ほとんど自然のない公園が造られてしまっていることを証明している。

これは現在各地で進められている保全緑地や〇〇の森、△△自然公園を造る場合にも言えることで、本来の自然を破壊して、造成して再び植林する方法をどの限り、生物の数は急激に減少し、自然のない緑地が出来上がってしまうことと思われる。都市環境の自然を保護、復元するためには人間優先の公園ではなく、自然優先の公園が必要ではないだろうか。

# よこはま 横浜 横浜 よこはま

桑の葉についているムツガイセキグモ(円内)と3個の卵のう(上) = 県自然保護センターで



# 私? 「カウボーイ」

夜間に約3ミリの細い糸を出してその端に粘り気のある球体を結び、振動を返して糸を取るとびつた習性の「ムツガイセキグモ」(別名・投げ縄グモ)が、このほど厚木市七沢の県自然保護センターで見つかった。県内では三十年前に相模原市内で確認されただけで、二例目の発見。捕獲されたのは雌で、今月十一日に死んだが、希少種のクモのため、同センターは写真パネルにして近くセンター本館に展示する。

## 「投げ縄グモ」30年ぶりに捕獲

厚木市自然保護センター

発見したのは日本蜘蛛学会と東京蜘蛛学会に所属している同センター所長の赤羽尚夫さん(55)だ。八月二十日午前十一時ごろ、園内を巡回中、高さ一・五メートルの桑の葉の裏側に採採の卵のう三個と雌の成虫を見つけた。日本蜘蛛学会会場でクモ田博明・興立山北高教諭(生物)に確認を依頼し、ムツガイセキグモと判明した。

ムツガイセキグモは関東以南の本州、四国、九州、南西諸島に分布。北限は東京都五日市町とされる。全国的に交配も四十匹ほどが確認されているだけで、クモ研究愛好家でも「一生に一度見ることばっかり」といふほどの希少種。

赤羽所長によると、成虫の体長は雌が八〜十センチ、雄が二センチ前後。体色は黒げ茶色。普通のクモとは違って網を織らず、夜間に長さ三ミリ程度の細い糸を出し、その先端に粘り気と香りのある球体を二個ほど付ける。ガナなどの羽音を聞きつけると、球体をクルクル回して「投げ縄」状にして捕獲する。しかし、獲物がない場合は、粘球を釣り上げて食べた後、再び粘球を作り直し、一夜のうち五回ほどの投げ縄をするといふ。

残念死亡 近くパネル展示

赤羽所長は「園内での発見に驚いている。異珠のようないくばり粘球には、雄の足を誘う雌の性フェロモンと同じような香りがある。十一日に死んでしまったが、三個の卵のうが残っており、来春のふたに期待している。写真もぜひお預りください」

粘球の投げ縄で獲物捕る珍種

# 分布は東京が北限 県内で30年ぶり確認

ねばねばした丸いたまを先端に付けた細い糸を投げ縄をして、ガなどの獲物を捕らえるという珍しいクモが、厚木市七沢の県自然保護センターの野外施設で今年八月に見つかった、と同センターが二十七日発表した。体長約一センチのムツトゲイセキグモのメスで、県内では三十年前に相模原市内で見つかった記録がある。

## ムツトゲイセキグモ

### 厚木の県自然保護センター 卵残りふ化に期待

見つけたのは、日本蜘蛛(くも)学会と東京蜘蛛談話会に所属している赤羽尚夫・同センター所長だ。八月二十日の日中、野外施設を見回っていたところ、クワの木の高さ一・五メートルに、卵の三つが付着していたという。

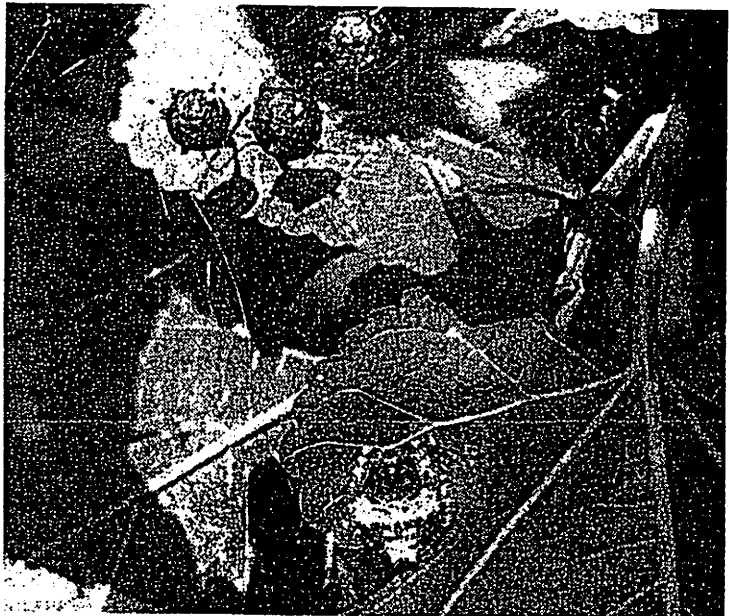
はじめは、ムツトゲイセキグモかどうかわからなかったが、写真を撮って図鑑などで調べているうちに、どうも最希少種のクモらしいと推定できたため、

同じ学会に所属し、クモについては詳しい、県立山北高の池田博明教諭に同定(確認)してもらい、ムツトゲイセキグモに間違いがないことがわかったという。

赤羽さんと池田教諭によると、ムツトゲイセキグモは、関東以南の本州、四国、九州、南西諸島に分布し、東京都五日市町が北限だといわれる。体長は成虫のメスが八〜一〇ミリ、オスが約七ミリ。こげ茶色だ。日中はクリやカキなど果樹の葉の裏側

に隠れている。夜になると、ガの羽音を頼りに、丸いたま(粘球)をつけた細い糸を足からぶら下げて、回転させながら三、四秒離れたところまで投げ縄をするという。

赤羽所長は「真珠のような粘球は粘りから出る。ガのメスの性フェロモンと同じような物質で、ガのオスを誘うのではない」といふ。見つけたメスは今月十日まで生きていたが、十一日には死んでしまったという。一個の卵の



クワの葉の裏側に付着しているムツトゲイセキグモ(下中央)と三個の卵のうち(上側)二個。八月、厚木市七沢の県自然保護センターで、赤羽尚夫所長撮影

うには四十一〜六十粒の卵が入っている。来春のふ化に期待している。

ムツトゲイセキグモは、日本で発見された記録のある一九四五年から一九八一年までには九匹しか見つかっていないが、現在では、四十四程度になってい

るのではないかといい。池田教諭は「ムツトゲイセキグモは、県内の自然環境からすれば、比較的暖かい小田原市や二宮町あたりにはいると思われるが、まだ見つかっていない。昨年夏に東京蜘蛛談話会の人たちが三重県で見つけている」と話している。